

県産野菜を求める消費者でにぎわう「青空市」—宇都宮市新里町のろまんちっく村

ろまんちっく村運営会社・



宇都宮市徳次郎町で農業を営み、青空市にダイコン

ろまんちっく村を運営する「ファーマーズ・フォレスト」は「栃木を食べよう」が「んばろう東日本!」プロジェクトを推進している。東日本大震災による停電で凍害などを受けた、東京電力福島第1原発の事故で風評被害にあつたりしている県産農産物を積極的に販売することで、県内農業を応援する。その動きは官と民の垣根を越え、全県に広がろうとしている。(徐映喜)

県産農産物販売で応援

「栃木を食べよう」

同社は県内約400軒の農家と契約し、ろまんちっく村の農産物直売所「青空市」や、宇都宮市のアンテナショップ「宮カフェ」の土産店「@m i y a」などで県産農産物を販売している。新鮮で安価な県産農産物は人気が高かった。

などを出荷している池田平さん(62)は「特に風評被害の影響は大きい。市場に品物を出しても半値くらいになつてしまふ。自分の子供のように大切に育ててきたんだけどね…」とくやしさをにじませる。

ろまんちっく村も園内の道路が隆起するなどの震災被害を受けたが、同社の松本謙社長(44)は地域貢献の一環として県産農産物の支援強化を決意。園内の飲食店で提供する料理のほとんどを県産農産物でまかなえるようメニューを変更したほか、農産物販売額の一部を岩手、福島、宮城の東北3県や、県内の被災地の支援のために寄付する活動などを始めた。

こうした活動に県や他の飲食店や小売店なども賛同し、栃木を食べようプロジェクトを近く拡大させる予定だという。

松本社長は「私たちの役目は消費者と生産者をつなぐこと。県産農産物の安全性を発信し、農家には積極的な出荷を、消費者にはさらなる購入を促したい」とし、県産農産物の消費拡大を訴えていくという。